

# 各地の富士山

日本全国には、「富士山」、「〇〇富士」と呼ばれるそれぞれの郷土の山がたくさんあります。ここでは数ある「地元の富士山」の中から代表的なものを紹介します。



※( )内の山名、標高等のデータは、平成14年度版「日本の山岳一覧 -1003山-」による

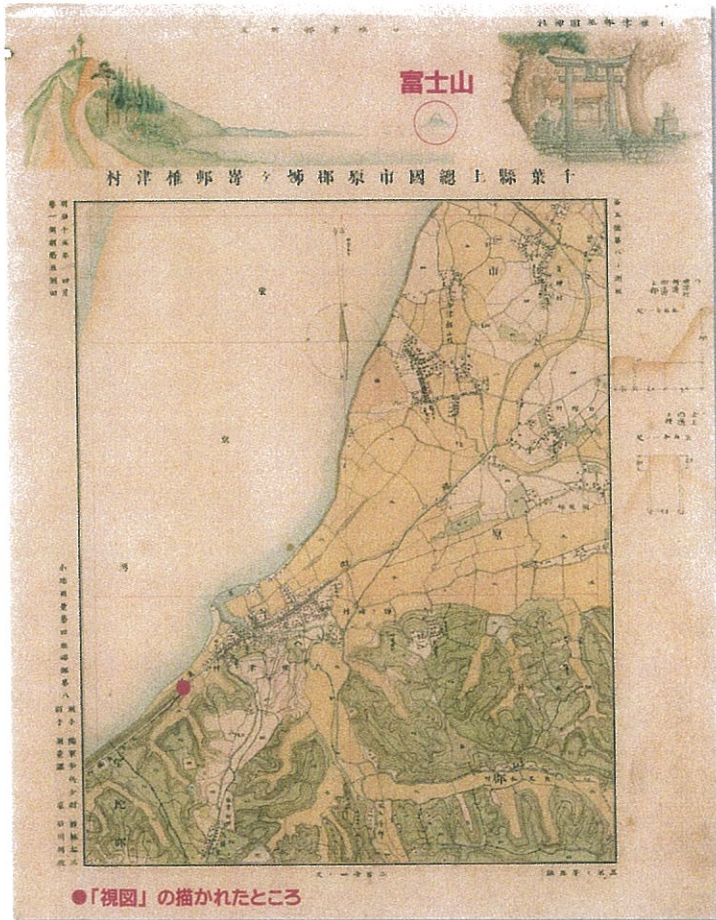
# 迅速測図原図に描かれた富士山

いまから百年以上前の明治初期に関東平野のほぼ全域と房総・三浦半島について、美術的にも優れた地図が作成されました。明治13年～19年(1880年～1886年)にフランスの技術を取り入れた「渲彩(彩色)図式」で描かれた「第一管軍地方二万分一迅速測図原図」です。この原図には、図郭の外側に周囲の風景や目印となる地物などがスケッチされたもの(「視図」)があります。

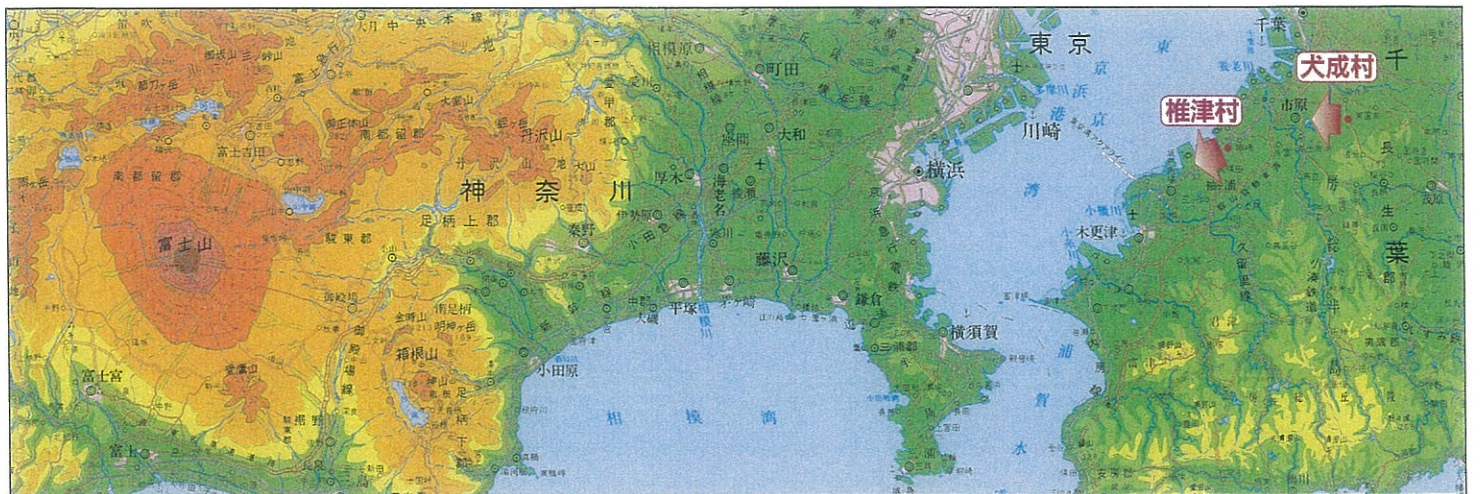
ところが、「視図」に、関東平野のいたるところから見えたであろう富士山の姿をさがそうとすると、約900面ある原図の中でほとんど見当たりません。

ここでは、原図2面に描かれた「富士山」を紹介します。いずれも現在の千葉県市原市付近からで、東京湾を隔てて富士山を遠望しています。

## 千葉県上総国市原郡 姉ヶ寄邨椎津村



## 千葉県上総国市原郡 犬成村及長柄郡皿木村



# 富士五湖「西湖」の湖底地形

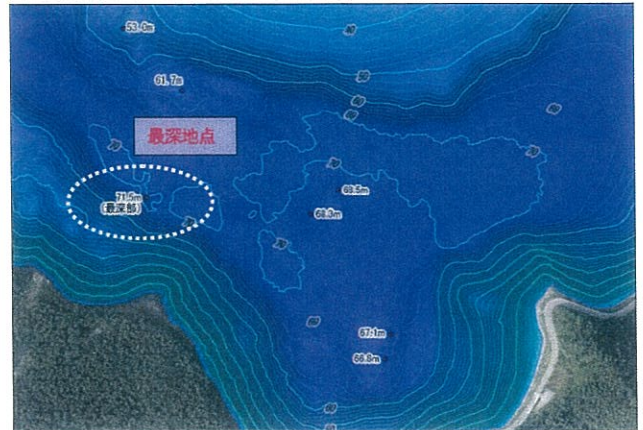
国土地理院は、山梨県、富士河口湖町、西湖漁業協同組合の協力を得て、平成24年9月、山梨県の富士五湖「西湖」の湖底地形を調査しました。今回の調査は、前回の昭和39年以來48年ぶりに実施したもので、マルチビーム音響測深機を用いて、西湖全体の高精度、高密度の水深データを得ました。この結果、詳細な湖底の地形が得られ、富士山から流出した溶岩流の地形や、陸域の扇状地が湖底に連続している地形などが明瞭にみられました。本調査で得られた高精度水深データ陰影段彩図「西湖(暫定版)」は、国土地理院ホームページで閲覧することができます。今回の調査結果は、西湖の自然環境の保全やクニマスの生態解明や保護への活用が期待されます。



高精度水深データの特徴的な4区域

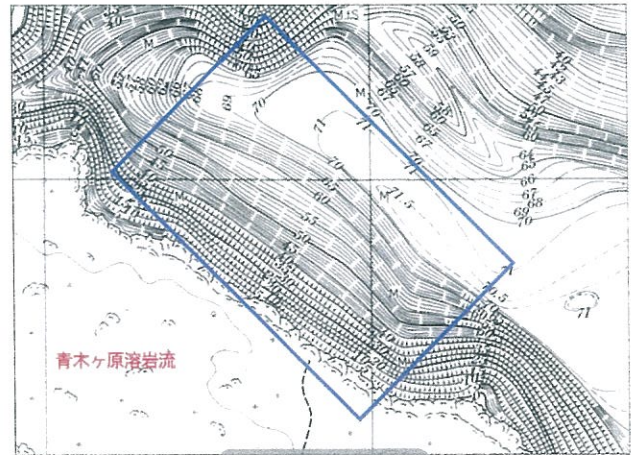
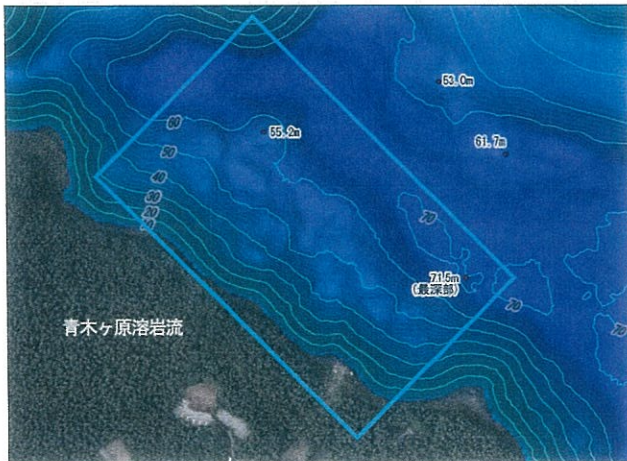
## 1. 最深地点

最深地点は西湖中央部のやや西側で、71.5mの深さでした。



## 2. 青木ヶ原溶岩流の微地形

西湖の南側には、西暦864年に富士山から流出した青木ヶ原溶岩流がみられます。昭和39年の湖沼図(右側)と比較して溶岩流の地形が明瞭に現れています。(昭和39年当時の湖沼調査は、観測地点毎の調査で面的な把握はむずかしかった)



## 3. 西側区域の堆積

西湖西側の区域では最深地点が47.4mから44.5mと約3m浅くなっているほか、全体的に浅くなっています。これは、昭和41年9月の台風26号の豪雨によって発生した土石流の堆積によるものと考えられます。



## 4. 桑留尾川(くわるびがわ)による扇状地

西湖中央部の北側には桑留尾川による扇状地の地形が見られ、その地形は湖底まで連続していることが明瞭に現れています。

